

授業の玉手箱

教育実習を経た学生の成長

夫 明美

今年も教育実習の時期がきました。学生たちは与えられたチャンスに一生懸命取り組んでいます。筆者が担当する短大の授業では、指導案作成から模擬授業の実施という「シミュレーション」を行っています。

指導案作成にあたっては、当該レッスンに至るまでの既習事項を踏まえて教材研究を行います。模擬授業では、各学生のデモをビデオで撮影し、後日再生しながら相互評価を行っています。学生自身が「自分のパフォーマンスを客観的にみる」こと、学生が「相互に建設的に批判・助言すること」を目的にしています。

多くの学生はカメラ付き携帯電話で、「自撮り」になれている世代ですが、「授業担当者」としての自分の姿を見ることは、「評価」が加わるためか、不安を感じるようです。また、自己評価のコメントを読むと、「自分の欠点ばかり」記述する学生も数人います。しかし、大半の学生はじっくりと自分とクラスメイトの模擬授業を観察して、建設的な批判や助言を記入しています。また、他者の模擬授業からヒントを得て、教育実習期間の授業や、実習後に行う2回目の模擬授業へ改善がみられることも多くあります。

まもなく実習を終えて、本学に戻ってくる学生が、2回目の模擬授業でどのような良い変化を見せてくれるのか、気を引き締めつつ楽しみに待っています。

書籍紹介

〔岩波講座〕教育 変革への展望1「教育の再定義」
編集委員：佐藤 学、志水宏吉 他、岩波書店
(2016/4/28)、3,456 円、304 ページ



時の中曽根内閣の「臨時教育審議会」あたりから使われ出した「教育改革」という言葉が耳に馴染んで早くも四半世紀が経過しようとする。この間、その時々の社会情勢の影響を強く受け、「教育改革」の錦の御旗のもとで、手を変え品を変え様々なメニューが登場してきた。

現在、教育は「量」の時代から「質」の時代への転換が喫緊の課題とされ、教育内容、アクティブラーニングに代表される学びの様式等、イノベーションが求められ、「教育改革」という言葉は一種の社会現象のごとくに教育現場に押し寄せている。

しかしながら、それらは見方によれば、子どもや教員や保護者の声から出発するというよりも、政治、経済、マスメディアなどの外在的な力によって発せられ、教育の内在的な規範や実践を突き崩すという深刻な状況と、排除と差別による教育格差の顕在化という現象を生み出しているのではないかと指摘もある。

本書はこのような課題認識の上に立ち「教育改革」の実践的、理論的、政策的課題を教育の内側から問い直し、教育に携わる教師、学生、研究者に信頼しうる知見を提供することを企図し、「教育格差と教育政策」、「教育改革の中の学校」、「グローバル時代の教育」など5項目にわたり、それぞれ著名な編集者の論文と対談形式で構成されている。

充実した読み応えのある書物であることから、今後発刊予定のものと同併せ全7巻を揃えられることを勧めたいと思う。(中垣芳隆)

第 44 回勉強会「英語の教え方教室」簡易報告

平成 28 年 6 月 11 日(土) 14:00 ~ 17:00

「Active Learning と英語教育実践

～学習者の自律をめざして～

姫路市立飾磨高等学校 山根 貴子 教諭

姫路市立飾磨高等学校の山根貴子先生に、アクティブ・ラーニングの実践についてお話いただいた。学習



者の自律と意欲向上をめざした協働学習、生徒のスピーキングを重視した活動、パフォーマンス・テストやグループ・サマリーやプレゼンテーションを取り入れた活動など日頃、山根先生行われている具体的な実践内容を参加者に共有していただいた。参加者は 11 名とやや少なかったが、充実した話し合いを行うことができた。

最初に山根先生が問われた“Active learning”を参加者はどう考えているか、フロアーからの意見を聞いた。「生徒による能動的・自発的な活動による授業」「生徒の個性を尊重しながら自分で考え学び合う授業」などとフロアーから回答があった。自主的、能動的という言葉はよく使われるが、「言葉が踊る」きらいがある。具体的には何をどのようにすることが自主的・主体的になるのかわかりにくい。ただ、現実にはそうした理解にとどまっていることが多く、管理職が錦の御旗のように“Active learning”と教員に迫っていることもあるようである。こうしたプレインストーミングのあと、Kagan(1994)の“Cooperative Learning is a teaching arrangement that refers to small, heterogeneous groups of students working together to achieve a common goal.” Dörnyei(2001a)の“Cooperative learning has been shown to generate a powerful motivational system to energize learning.”などと「協働学習」に関する文献を紹介された。

そのあと、Jigsaw Reading 例を紹介された。“Big Dipper English II”の Lesson 7 が4パートで構成されていること活用して、パート毎にエキスパート班が「語彙調べ、読む練習、メインピック、内容の要点、重要なポイントの整理、大切な文法や語法の確認、キーワードを使つての要約」などをまとめ、班に戻って内容を理解し合うという授業展開であった。教員は scaffolding として observer として必要があれば助けるという役割で、生徒が小先生となって教え合う形態と思われた。生徒は積極的に活動に参加し、英語嫌いの生徒が活躍したとのことであった。Jigsaw Reading は、異なる3～4つの共通教材が一つに詰め込まれて初めての全体の意味合いがわかり、それにより思考が活性化される教材を扱うのではないかとフロアーからの意見もあった。

Group summary & presentation 活動は、一斉授業で活動の説明、語彙の練習、重要事項の説明、音読練習、Summary Dictation などのあと、学習した教材のストーリーをグループに振り分け、各グループでまとめて発表させるものであった。その際、performance 評価を取り入れ、ルーブリックを事前に示して、どう評価されるかを生徒に確認させているとのことであった。詳細報告は本学 HP を参照。(中井)

「勉強会」今後の予定

■第 45 回勉強会「英語の教え方教室」

平成 28 年 7 月 9 日(土) 14:00 ~ 17:00

「授業をリフレクションすること - 自分の授業実践を通して -」

大阪府立槻の木高等学校 南 侑樹 教諭

リフレクションや生徒とやりとりを通していかに授業が変容していくかについてご自身の授業実践を南先生にお話いただき、その話題をもとに参加者の皆様と話し合う。

■授業デザインスキルアップ演習(無料講習)

平成 28 年 8 月 10 日(水) 10:00 ~ 16:30

「英語の世紀」に生きる - グローバル時代に本物の英語を教えるために -

大阪女学院大学 教授 中井弘一

グローバル時代に必要な本物の英語とは何か、グローバル時代の英語授業はそうあるべきかを考える。

申し込みは 7 月 11 日(月)までに

詳細は <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course>



編集後記

今夏も教員免許更新講習 1・2 を行う。それぞれ 50 名を超える参加申し込みが一週間であった。気を引き締めてがんばりたいと思う。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp